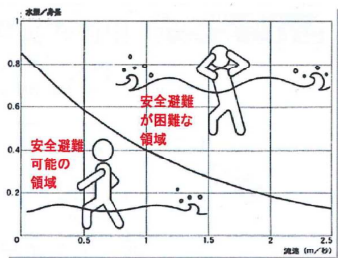


(参考) 洪水避難時に水中歩行できる領域



洪水時に避難行動を安全に行うためには、洪水の程度(浸水深と流速)と歩行の危険性との関係をあらかじめ知っておく必要があり、実際の避難行動に近い状況を想定した水中歩行実験が行われている。流水の大きさと歩行の安定性については、成年男子の場合、水深が膝程度(40~50cm程度)の時には、流速がある程度あったとしてもゆつくりであるが安定して歩け、水深が股下程度(80cm程度)の時には、大きく影響を受け歩きづらくなっている。

水深/流速と避難の可能性

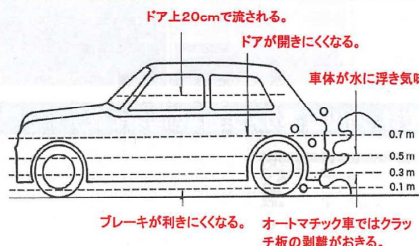
水深/流速	0~0.5m/s	0.5~1.0m/s	1.1m/s~
膝~	困難	困難	困難
膝~腰	可能	困難	困難
~膝	可能	可能	困難

水深/流速	0~0.5m/s	0.5~1.0m/s	1.1m/s~
1.0m~	困難	不可能	不可能
0.5~1.0m	可能	困難	不可能
~0.5m	可能	可能	困難

歩行困難となる流速と水深の関係としては以下の研究結果(浸水深と流速をそれぞれ3区分し、その組合せで避難の可能性を示している)がある。

出典：『氾濫原管理のための氾濫解析手法の精度向上と応用に関する研究』(末次忠司,九州大学学位論文1998)

(参考) 自動車走行の危険性



車の被害発生状況

浸水深区分	浸水区分と道路走行中の被害の発生状況
浸水深 10cm未満	・走行に開し、問題はない。
浸水深 10~30cm	・ブレーキ性能が低下し、安全な場所へ避難する必要がある。
浸水深 30~50cm	・エンジンが停止し、車から脱出を図らなければならない。
浸水深 50cm以上	・車が浮き、パワーウィンドウ付きの車では車の中に閉じ込められてしまい、車とともに流されるなど危険な状態となる。

出典：利根川の洪水-語り継ぐ流域の歴史-(平成7年) / 須賀克三監修・利根川研究会編

○水深が深くなる前に早めの避難を心がけましょう!

問い合わせ先

危機管理型水位計運用協議会運営事務局

〒102-8474 東京都千代田区麹町一丁目三番地(ニッセイ半蔵門ビル)

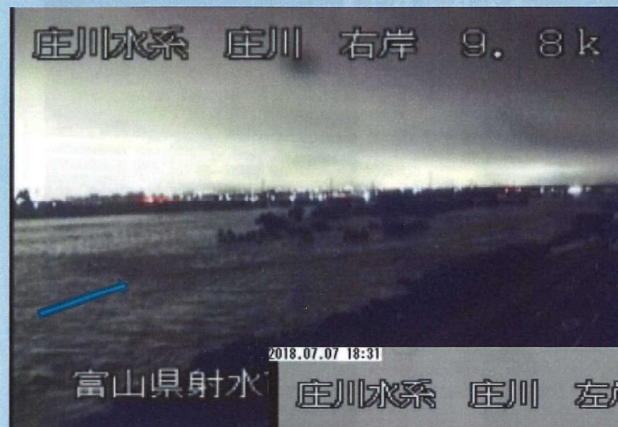
一般財団法人河川情報センター

電話 03-3239-2641 FAX 03-3239-0929 e-mail kss-kikaku@river.or.jp

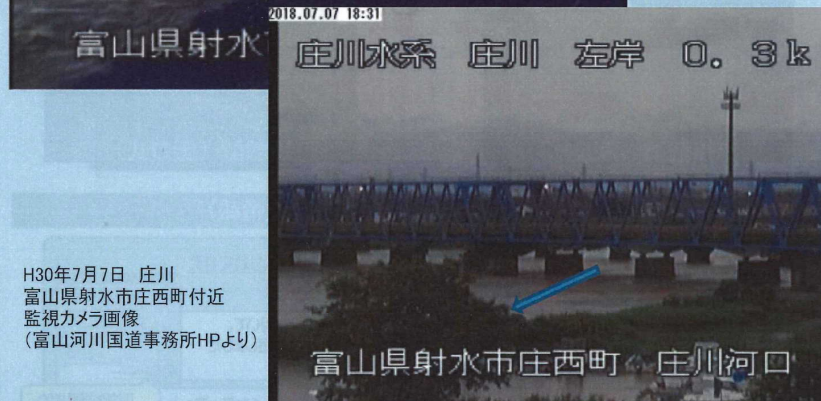


逃げ遅れゼロをめざして

危機管理型水位計による身近な河川水位情報の提供



H30年7月7日 庄川
富山県射水市土合付近
監視カメラ画像
(富山河川国道事務所HPより)



H30年7月7日 庄川
富山県射水市庄西町付近
監視カメラ画像
(富山河川国道事務所HPより)

「川の水位情報」へのアクセスはこちらから

●QRコードから



スマートフォン

●検索エンジンから

川の水位情報 検索

●ブラウザから

HPアドレスを入力 <https://k.river.go.jp/>

PC/タブレット

管理・運営；危機管理型水位計運用協議会
事務局；(一財)河川情報センター

FRIC
一般財団法人
河川情報センター